

中小企業診断士ホルダーだけでなく、この資格を志す者であれば、誰もが一度は「独立開業」を考えたことがあるのではないか。一般社団法人中小企業診断協会（現・日本中小企業診断士協会連合会）の「『中小企業診断士活動状況アンケート調査』結果について」（2021年）によれば、実際に診断士として独立している人は全体の47.8%。将来的に独立を目指している人を含めると、実に70%以上となっている。「独立を検討している診断士」が相当数いるということだ。そんな「独立検討層」の一番の不安・悩みは、「独立して本当に仕事が取れるのか」であろう。端的にいえば「食べていけるか否か」だ。そこで本特集では、独立「最初の1年」にフォーカスし、活躍中の4名の診断士が具体的にどのようにして仕事を手にしたのかを大公開する。

# 独立1年目の 仕事の作り方

私たちのスタートダッシュ

## 独立のボーナスタイム 「最初の1年」を無駄にするな！

酒井 勇貴  
合同会社クレイジーコンサルティング 代表社員／中小企業診断士

現在46歳にして独立13年目を迎えた筆者の「最初の1年」を振り返ってみたい。「どのようにして仕事を手にしたのか」の話に入る前に、なぜ独立に踏み切れたのかについて触れておきたい。その理由は極めてシンプルだ。「会社員でいることが、苦しくて辛くて耐えられなかったから」だ。



筆者近影

思う。無論、当時から独立したい気持ちは持ってはいたが、それが一歩踏み出す原動力にはなっていない。ただ単に痛み・苦しみから逃れたかった。

結果、妻と子供がいるのに、34歳になってすぐの夏、貯金ゼロで独立した。そんな状況での独立なのだから、仕事の当てなどあるわけがない。でも、こうするしかなかった。もし、あの時に自分の中にある悲鳴と向き合っていなかったら、今もきっと独立していなかったはずだ。

多くの診断士は、合理的に独立を判断しようとする。退職金がどうこう、社会保険が云々、貯金があるかないか——。その結果、「今は独立しない」となる。当たり前だ。合理的に考えたら、「今は独立しない」にしかならないのだ。

### (2) 「痛み・苦しみから逃れたい力」を使え！

独立・開業は前向きな理由であるべき——と説く者もいるが、そんなのは大嘘だ。今に不満がないのに、安定した生活基盤を捨てることなどできるわけがない。「痛み・苦しみから逃れたい力」こそが、独立・開業の強い原動力になるのだ。

独立・開業は思いどおりに進まないことも多い。辛い思いもたくさんする。それでも「独立・開業

### 1 独立は合理的な判断ではできない

#### (1) 合理的に考えたら「独立しない」になる

当時は、トイレから出られないような日も少なくなかった。ノイローゼの一手手前だったように